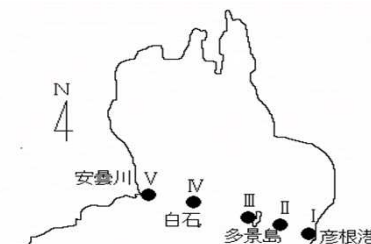


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和6年5月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和6年5月14日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

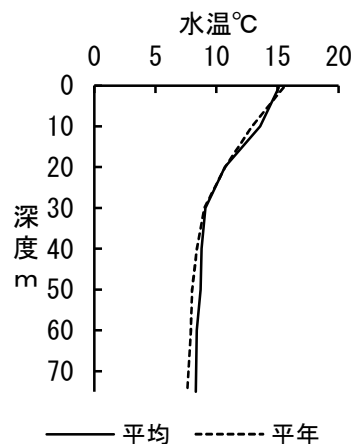
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2014年～2023年(平成26年～令和5年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 5月平均値 5.6m 平年値 5.2m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	5月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	15.1	15.5	-0.4
10	13.6	12.9	+0.7
20	10.7	10.7	+0.0
30	9.1	9.0	+0.1
40	8.8	8.4	+0.4
50	8.7	8.0	+0.7
60	8.4	7.9	+0.5
75	8.3	7.6	+0.7



3. 湖岸水温 (°C) ※機器不具合のため欠測。

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
4月下旬	欠測	12.7	—
5月上旬	欠測	14.3	—
5月中旬	欠測	15.5	—

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	5月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	52.9	21.5	+31.4
10~20	18.8	6.2	+12.6
20~40	4.3	2.1	+2.2
40~75	2.2	0.8	+1.4

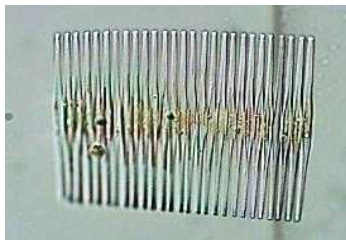
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、両地点とも細胞数では*Fragilaria crotonensis* (オビケイソウ:珪藻)が、量的には*Micrasterias hardyi* (ミクラステリアス:緑藻)が最も多く認められた。

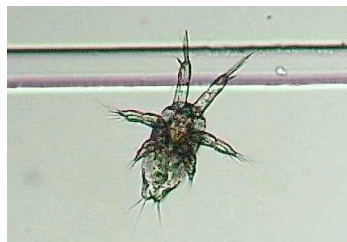
動物プランクトンについては、全地点でカイアシ類のノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



Fragilaria crotonensis



Micrasterias hardyi



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	5月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.9	109.0	11.1	111.6	-0.2	(-2.6)
10	11.0	105.4	11.3	107.8	-0.3	(-2.4)
20	10.7	96.0	10.8	98.0	-0.1	(-2.0)
30	10.7	92.3	10.6	93.2	0.1	(-0.9)
75	9.4	79.7	8.6	78.1	0.8	(+1.6)